

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月18日

【評価実施概要】

事業所番号	873100978		
法人名	医療法人社団 正信会		
事業所名	グループホーム 大洗		
所在地	東茨城郡大洗町大貫町長峰2922-1 (電話) 029-264-5213		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年7月19日	評価確定日	平成20年1月8日

【情報提供票より】(平成19年6月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月15日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	18 人	常勤10人, 非常勤8人,	常勤換算4.15人

(2) 建物概要

建物構造	平屋	造り
	1階建ての	～ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,500 円	その他の経費(月額)	5,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	300 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(6月22日現在)

利用者人数	23 名	男性 5 名	女性 18 名
要介護1	6	要介護2	5
要介護3	8	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 82.5 歳	最低 72 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	美野里病院 伊藤歯科診療所 大洗海岸病院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、平成15年に大洗町医師会の要望等により、地域で初めて開設したグループホームである。
ホームでは、利用者のかかりつけ医による継続した医療を受けられるとともに、設置法人の病院による往診を始め地域の緊急病院や歯医者者と提携するなど、24時間いつでも適切な医療を受けられる体制を構築している。
職員は、利用者が安心して生活できるよう一人ひとりの思いや希望を把握するとともに、希望に沿った支援の実践に努めている。
また、日々の生活の中でもお互いに教えたり教えられたり、利用者と支えあう暖かな関係を構築している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 運営者、職員と改善項目について会議を持ち、運営推進会議の開催、保育園児・ボランティアの交流、中学生の体験学習、広報紙を発行するなど、改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 全職員が評価について理解しており、自己評価作成及び評価結果について、職員と話し合うなど、サービスの質の確保に努めている。 今後は更なる向上のため、利用者の状態等に合わせたユニットごとの自己評価に取り組むことを期待する。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は前年度1回実施したが、今年度は会議内容の見直しと開催回数増を計画しているので、会議の議題等について検討し、運営推進会議を開催することを期待する。 推進会議メンバーに地域住民の参加が少なく、地域の理解や支援を得るまでには至っていないので、運営推進会議のメンバーとして参加できるよう働きかけることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 職員は家族の訪問時に不満や要望等を聞き、意見を反映できるよう取り組んでいる。 契約時にも苦情受付や意見等の相談窓口を説明するとともに、重要事項説明書に明示している。 訪問が少ない家族の意見等を反映できるようアンケートを実施する等の取り組みを期待する。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 中学生の体験学習の受け入れ、保育園児の招待、大正琴ボランティア等が訪問するなど、地元の人々と交流している。 日々の生活の中で利用者はホームの庭や近くの池などを散歩しているが、ホームに車が無いため外出する機会が少なく、地域の祭りや行事等へ地域の一員として積極的に参加するなど、地域の人々と交流することを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「やさしく しんせつ ていねいに」の理念を使用しているが、地域密着型サービスとしての理念を検討している。	○	利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるよう、その基本となる理念について、職員や利用者などと検討することが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は理念を共有し、利用者に接している。	○	地域密着型サービスの役割を踏まえた、新たな理念づくりを期待するとともに、利用者と職員が協力して、理念の実現に向けて実践することを期待する。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中学生の体験学習の受け入れ、保育園児の招待、大正琴ボランティア等が訪問するなど、地元の人々と交流している。	○	地元の祭りや行事等へ地域の一員として積極的に参加するなど、地域の人々と交流することを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価について理解しており、自己評価作成及び評価結果について、職員と話し合うなど、サービスの質の確保に努めている。 運営者、職員と改善項目について会議を持ち、運営推進会議の開催、保育園児・ボランティアの交流、中学生の体験学習、広報紙を発行するなど、改善に取り組んでいる。	○	今後は更なる向上のため、利用者の状態等にあわせたユニットごとに自己評価に取り組むことを期待する。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は前年度1回実施したが、今年度は会議内容の見直しと開催回数増を計画している。 推進会議メンバーに地域住民の参加が少なく、地域の理解や支援を得るまでには至っていない。	○	運営推進会議では、自己評価・外部評価等の結果を公表するなど、会議の議題等について検討し運営推進会議を開催することを期待する。 また、地域の方々にもホームの理解や周知を図るため、運営推進会議のメンバーとして参加できるよう、働きかけることが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の会議へ積極的に参加し、町担当者等にホームの実態等を知らせるとともに意見交換を行い、問題を解決している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の状況を具体的に報告するとともに、毎月の請求書送付時に利用者の暮らしや健康状態等について報告している。 また、行事の写真や年4回発行している広報等を併せて送付している。	○	家族が利用者の生活をより把握するため、広報紙の発行を増やす等、利用者や家族に合わせた報告の体制づくりを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の訪問時に不満や要望等を聞き、家族の意見が反映できるよう取り組んでいる。 契約時にも苦情受付や意見等の相談窓口を説明するとともに、重要事項説明書に明示している。	○	訪問が少ない家族の意見等を反映できるようアンケートを実施する等の取り組みを期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が少なく、利用者への職員の離職による影響は少ない。 また、管理者と職員間の連携もよく、顔馴染みの職員によるケアを実践している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の育成に関する計画や研修を受講するなどの体制づくりが、十分に整備されていない。	○	職員の育成は、ホームのサービス向上にむけた重要な役割を果たすので、職員に応じた内部や外部の研修を受講できるよう、体制づくりをすることが望まれる。 また、全体会議を利用した発表や研修報告書を全職員が閲覧する等の仕組みづくりを期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターが主催する会議や学習会に参加し、他の事業所の職員と交流や学習するとともに、情報をホームのサービスに活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者を受け入れるにあたり、職員や他の利用者と馴染みの関係をつくりながら、サービスを実施するまでには至っていない。	○	今年度は、利用予定者にショートステイを利用できるよう検討しているので、本人や家族が安心して、納得したサービスを受けられる仕組みづくりを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と喜んだり、笑ったり、教えられたり等とともに学び、支えあう関係を構築している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに声をかけ、言葉や表情、動作等から本人の思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員等と話し合い介護計画を作成しているが、介護計画書に家族の確認印もれや鉛筆書きの介護計画が散見しており、利用者・家族が納得した介護計画を作成するまでには至っていない。	○	今年度より、介護支援専門員を採用しているので、介護計画等の書類作成の方法について、職員に周知を図るとともに、家族等に説明・確認する仕組みづくりが望まれる。 また、介護計画書に家族の確認印漏れや鉛筆書きが散見されるので確認を徹底することを提案する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化があった場合は、本人・家族、職員等と話し合いにより、新たな介護計画を作成しているが、体調等の変化のない利用者について、期間に応じた見直しを実施していない。	○	利用者や家族が、介護計画に沿って安心して生活できるよう、介護計画に期間を定め、期間に応じた見直しを行うことを期待する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	タクシー利用や法人所有の車による通院介助・買い物・早期退院に向けた支援等、利用者や家族の希望に応じて柔軟に対応している。 また、在宅で生活している高齢者の支援として、ショートステイの利用を計画している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制加算を取得し、24時間医療が受けられる体制を整えている。 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診、設置法人内の病院による月2回の往診等、利用者に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。 受診や通院は利用契約時に説明し同意を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じて本人・家族の意向を確認するとともに、医師や職員等と話し合いを行う等、重度化や終末期の対応について、関係者全員の方針を統一している。	○	重度化や終末期にかかる意志確認書等の書類を作成するとともに、対応に関するマニュアルの作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや体調への配慮、その時の本人の気持ちを尊重するなど、利用者に応じた柔軟な支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は配膳や下膳、ジャガイモの皮引き等できることを職員と一緒にやっている。 食事は職員と利用者が同じテーブルで同じメニューの食事を和やかに食べている。 利用者の希望を聞いて献立に反映したり、行事の際には、特別メニューを提供している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は事業所の都合で週2回となっており、契約時に利用者や家族に説明し、了承されているが、家族等の希望を反映するまでには至っていない。	○	利用者や家族の希望に添った入浴支援ができるようアンケートを実施する等により、ニーズを把握し、改善に向けた検討を行うこと期待する。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	配膳や下膳、食事の準備、新聞取り、観葉植物や花等の世話、散歩、折り紙細工や刺し子等、利用者一人ひとりに合った楽しみや役割づくりの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や天気の良い日に散歩をしているが、ホーム専用の車がないため、事業所の中で過ごしていることが多い。	○	利用者の気分転換やストレスの発散、五感を刺激する機会として、買い物やドライブ、楽しみごとの行事等、外出の個別支援に取り組む方法等の検討を期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外出するときは、職員と一緒についていく等の支援をしている。 玄関は日中も鍵を掛け、出入りはチャイムにより確認している。 鍵をかけている理由（柵のない池がある事、不審者予防等）について、家族に了解を得ている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災マニュアルを作成するとともに、年2回消防署の協力を得て避難訓練や消火訓練を実施しているが、地域と連携をした訓練の実施や備蓄品等を準備するまでには至っていない。	○	事業所のみで訓練するばかりでなく、訓練実施時には地域の人々に参加を呼びかけるなど、協力を得られるよう働きかけるとともに、ホームに起こりうる災害に備えたマニュアルの作成、備蓄品等を準備することを期待する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	設置法人の栄養士の協力により、栄養バランスの取れた献立を作成するとともに、利用者の身体機能に応じて食べる量や刻みなどを実施している。 職員は利用者の食事量や水分量、摂食カロリー等一日全体を通して把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やフロアには季節の花や観葉植物を飾るなど、調度品も家庭的で落ち着いた環境を整えている。 フロアや廊下に長いすを設置し、利用者同士がくつろいだり一人で過ごせる場所を確保している。 また、ご飯の炊き上がる匂い、茶碗を洗う音やテレビの音など、五感に働きかけるとともに、部屋の温度等にも配慮し、居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室は、時計や写真、カレンダーや手作り作品、位牌や本、歯ブラシやコップ等使い慣れた馴染みの物を持ち込み、居心地良く、安心して過ごせる場所となっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。